

平成30年度おかやま協働のまちづくり賞応募用紙

平成 30 年 10 月 18 日

岡山市長 様

応募者代表 団体名 蕎麦でイキイキ実行委員会

氏名 景山 勝己

平成30年度「おかやま協働のまちづくり賞」に応募します。

取組の名称	耕作放棄地再生で小人数による6次産業の起業（もち麦&蕎麦でまちおこし）	
取組の概要	<p>地域の宝である耕作放棄地で草刈をし、農薬も化学肥料も使わずソバとモチ麦の変形2毛作を行う。収穫した種は、丸麦、大麦粉、ソバ粉に加工し、蕎麦打ち教室、子どもたちの種まき、地産地消セミナーに使う。また、依頼があれば地域のイベントに無償提供し、さらに労働力も提供する。このような活動を5年続けた結果、お預かりする田んぼも少しづつ増えて、1ヘクタールを超えた。農的活動は現状の人員では限界点に達した。これからの予定として、就労支援事業者と協働して小規模生産活動を立ち上げる。この11月から足守町並み保存地区で蕎麦処「三味庵」開業。大麦関連では、ももどの学園でパフした「もち麦グラノーラ」の試験販売。</p> <p>※インターネット投票を行うサイトにそのまま掲載します。今年のテーマとの関連がわかるよう、目的（解決を目指している課題）及び取組概要を300字（句読点含む）以内で記載してください。</p>	
協働団体	特定非営利活動法人日本モトシヨク 船山町内会	
取組の実施期間	始期：平成25年 6月～	<input checked="" type="checkbox"/> 平成30年 3月終了 <input type="checkbox"/> 継続予定 <input type="checkbox"/> 平成 年 月頃終了予定 <small>※該当するものに☑し時期の予定し必要事項記入してください。</small>

●次の書類等を添付してください。

①〔様式1〕協働による社会課題解決の取組の内容

②〔様式2〕取組実施団体概要書

③写真等取組イメージ画像の電子データ（1枚）

インターネット投票を行う際にエントリー一覧に使用します。エントリー一覧は、応募順（事務局受付順）に掲載します。

④取組内容や成果、協働の役割などをわかりやすくまとめたシート（A4またはA3）1枚

シートをもとに、事務局でポスターを作成し、展示等を行います（シートの作成が技術的に困難な場合は早めにご相談ください。シートづくりをお手伝いします。）

⑤その他取組の説明資料：A4で2ページ以内で添付できます。

※提出していただいた書類等はすべて審査の対象となり、〔様式2〕以外はジで公開します。

〔様式1〕 協働による社会課題解決の取組の内容

取組の名称	耕作放棄地再生で小人数による6次産業の起業（もち麦&蕎麦でまちおこし）
平成30年度募集テーマ	やりがいと豊かな暮らし SDGs目標8：働きがいも経済成長も SDGs目標11：住み続けられるまちづくりを
テーマとの関連	<p>◎テーマと合致する貴団体の取組についてお書きください。</p> <p>岡山は農業県である。しかし、ふるさとの田んぼは荒れ果て草に覆われ放棄地に成り果てた。この地域の宝を再生するためには、①高齢者でも障がい者でも誰でも作れる作物で②ちょっとした時間で作れて、今まで岡山にない特産品になりうる作物を作りたい。この試行錯誤がもち性大麦「キラリモチ」と、西日本の気候で作れる香り高い「さちいずみ」というソバの変形2毛作の循環農業を成立させた。この収穫物である1次産品は、大麦であれば精麦後はモチ麦ごはんの丸麦と製菓材料の大麦粉に加工する。ソバであれば製粉後、香り高い十割蕎麦、ガレット・デ・ブルターニュ、かりんとうなども作れる。</p> <p>小さな田んぼで土作りを楽しみ、小さな6次産業化をいろいろな地域で立ち上げて、農業も化学肥料ももったいないので使わない。手抜き自然農は、ヒトの身体にもフトコロにもやさしい農業。この活動を5年続けてきた。おかげでもち麦は1t近い収量が期待できるまでになった。加工は社会福祉法人「ももぞの学園」にあるパフマシーンで「もち麦グラノーラ」等に加工し、自然食品店を中心に販売していく予定である。</p> <p>ソバはこの間、市立北公民館や御津公民館で蕎麦打ち教室を開催してきた。現在、受講生のうち2名のものと蕎麦屋「三味庵」を北区足守町並み保存地区で開業する。また、ここで「ももぞの学園」のポン菓子と詰め合わせにして足守土産として販売していく。耕作放棄地からできた産物によって、蕎麦屋を開業やももぞの学園での加工は、それぞれに働きがいをもたらし、6次産業化によりまちづくりができていていると考える。</p> <p>徒手空拳で6次産業に立ち向かうためには、他者の困り事の解決を前提に様々な団体と協働していく必要がある。そしてその問題解決と自らの活動目標が折り合うときに、経済循環として自分たちの活動の持続性を達成することが可能になる。</p>
目的・解決をはかりたい課題の状況・目標	<p>◎取組の目的、解決をはかりたい社会課題の状況把握・ニーズ把握、解決後の姿（目標としている状況）などについてお書きください。</p> <p>耕作放棄地再生は、まず田んぼの草を刈ってほしいという所有者の困りごと解決から始まる。無償で草を刈り、そこに手のかからない大麦やソバを蒔き、収量にこだわらずにやり続ける。この収穫物は、いくなればお天道様からの授かりモノ。その加工においては、地域の社会福祉法人「ももぞの学園」のパフマシーンで「もち麦グラノーラ」に加工して販売していく。このサプライチェーンをワンパイワンで増やしていくことは、とりもなおさず障がい者雇用のチャンスメイクにつながる。そして、この活動の評価指標は、端的にいくら加工賃として支払えたかということになる。</p> <p>また、うどん県香川を目の前にした岡山には、ほんものの蕎麦にめぐり合うチャンスは少ない。高齢化を前提に蕎麦打ち教室を5年続けて普及活動に取り組んできたが、成果として2名の蕎麦屋開業志望の若者にめぐり合えた。彼らが自前の蕎麦屋を繁盛させてくれれば、耕作放棄地を基点にしたソバによる小さな6次産業の規模が拡大する。めぐりめぐって耕作放棄地を再生することにつながるというビジネスモデルだ。</p> <p>このビジネスモデルは、作物の種類を問わない。中山間地の農地集積が難しい田んぼの再生を基点に小人数で1次、2次、3次とステップアップし、様々な協働先に雇用を作りつつ、自分たちの起業へとつなげていく。もしかすると地方創生は、この小規模生産、小規模消費の先にあるのではないだろうか？</p>

<p>取組の内容</p>	<p>◎取組の内容について具体的にお書きください。</p> <p>1 取組の対象：対象地域、対象者、対象人数など 活動地域は、御津小学校区と牧石小学校区。 協働した先は、御津公民館と北公民館を中心に、それぞれの町内会、婦人会、老人会、など。 対象人数は、年度ごとに異なる。 取り組みの詳細は添付した「蕎麦でイキイキ実行委員会の年度別活動総括」に記載。</p> <p>2 活動内容、実施方法など（活動ごとに箇条書きで）</p> <p>① 耕放棄地の再生 農業人口の減少と高齢化で実際に直面する問題は、草刈が体力的にも精神的にも金銭的にも難しくなることだ。町内会などとのパイプをもてれば、こうした問題解決を前提に田んぼの保全を任される。しかし、営農における周辺環境保全にかんしては、池まわりの管理、共同行事（夏祭り、土手の草刈、用水のドブさらいなど）にも積極的に参加する必要がある。</p> <p>② 適地適作の模索 それぞれの田んぼには、テロワール（土壌）としての特徴がある。それと自分たちがやりたい作物の適合性を見極めるには、少なくとも5年程度は必要だということを肝に銘じておくべきだと思う。わたしたちは、無農薬、無化学肥料を前提に土壌菌のよるこぶ自然農をベースに活動をしてきた。放置竹林の整備をし、チップで砕いた竹チップを2年かけて堆肥化し、枯れ竹などは焼いて竹炭にし、田んぼこいれた。即効性のある肥料ではない。土地の中に住む住人たちがよるこぶだろうという思いで続けるしかないと考えている。</p> <p>③ 協働先との連携 この取り組みの協働先は、地区の公民館や町内会がおもな連携先である。公民館には地区担当者がいて、個別の問題をよく把握されている。また、町内会長は、よそ者である我々と住民の仲介役を引き受けてくれる。この人たちの存在無しにはここまで円滑に事業が進むことはなかった。</p> <p>④ 2次・3次化における行政との連携 むかしは村々にあった精米所も製粉所も今はない。自前でこれらを安直に立ち上げるにもヒト・モノ・カネがない。また100kg単位ではビジネスとして成り立つはずもない。当然のこととして加工委託に頼らざるを得ない。現在我々は、ソバの製粉加工を姫路にある製粉所に依頼をしている。大麦は、京都の会社に依頼をしている。その加工賃は馬鹿高い。しかし、補助事業として行政の理解を得てこれらを事業化できれば、ここに新たな就労チャンスを作り出せる。現在、わたしたちが模索している提携先は就労支援A型施設である。障がい者就労のチャンスメーカーができるならこの事業化の社会的貢献度を上げることになる。</p> <p>⑤ ビジネスモデルとしての6次産業 耕作放棄地基点のソバと大麦の6次産業化は単なる食品製造業を立ち上げることが目的ではない。ヒトの健康増進に寄与する「命のくすり」は、土作りからスタート。菌根菌などの土壌菌や様々な土中生物（みみずさんなど）のよるこぶ土作りには放置竹林を整備するなかで生じた竹チップ堆肥や、竹炭を定期的に田んぼに散布。草刈の草はできるだけ鋤き込んで緑肥にする。つまり化学物質にたよらない土作りから始めて、自然環境に負荷をかけない農的活動の成果物としての実りを享受。</p> <p>小さな田んぼで収穫された種は、小規模な製造設備で障がい者の皆さんのお力を借りて製粉し、専門性のある研究者の力で付加価値生産性の高い商品に作りあげる。そして、できるだけ短いサプライチェーンを構築し、物流コストを圧縮すれば一般商品として顧客を獲得することができる。</p> <p>◎取組をWEB等で告知している場合はそのURLをお書きください。</p>
--------------	---

	団体名	この取組で果たしている役割
協働団体とその役割	特定非営利活動法人 日本モトショク	経済的な補填を行うと同時に、県外先進地の情報収集とその共有行ってきた。たとえば、大分県豊後高田市のソバ生産組合の活動、徳島県神山町の地域活性化の取り組みなどの情報を会員のみinnで共有してきた。
	船山町内会	連合町内会とこの活動の仲介役。牧石の婦人会、老人会、小学校などとの仲介役として、耕作放棄地の草刈を総出で行い、そこで変形2毛作を行ってきた。
取組の工夫 取組の特徴	<p>◎地域資源や人的資源の活用など工夫した点をお書きください。</p> <p>蕎麦打ちに興味を抱く者は、原料のソバ粉を自分で作ってみたいくなる。蕎麦打ち教室の受講生の協力もいただきながら、御津草生、牧山、牧石で春そば「春のいづき」香りソバ「常陸秋そば」信州「信濃1号」九州沖縄農研機構「さちいづみ」などを栽培してきた。この中で岡山にもっとも適した「さちいづみ」の種を金山の高野尻、長船町でも栽培してもらったが、良好な結果が得られた。また、姫路の寺尾製粉所の委託して石臼挽きソバ粉にして、教室で十割蕎麦で試食してもらったが、ことのほか好評であった。今後は、さらにこの栽培を岡山で増やす。</p> <p>その裏作でいづゆるビール麦「ミナルゴールド」という2条大麦をつくっていたが、昨年よりもち性大麦「キラリモチ」にくら替えをした。7分搗きの丸麦は食味も良好で、炊飯後褐変することもなく3割もち麦ごはんを食べれば「食後の血糖値上昇を抑えたり」「便秘を改善したり」「内臓脂肪を減少させる」といった健康機能が期待できる。</p> <p>◎取組の特徴やアピールポイントをお書きください。</p> <p>6次産業というとおおげさに聞こえるが、小人数で可能な草刈をして、その後手間のかからないソバや大麦を栽培する。圃場確保の増加に伴い家庭用の製粉機や協働先の製造設備で商品をつくり、自らの手で売り歩く。小商いの小規模生産、小規模消費は無駄な借金をしなくて済む。</p> <p>ヒト・モノ・カネは起業時に心配される事柄だが、ヒトが足りなければ就労支援事業との協働を考えれば相互扶助の取り組みができる。モノがなければ持っている団体と協働で作ればよい。身の丈にあった小商いは、大きな借金を必要としない。サプライチェーンを最小化すれば、おのずと地域とのかかわりが増えて、新たな視点も見つかる。多様な人々が共助のつながりで協働できることが、持続的な経済活動支えてくれる。</p>	
成果・効果	<p>◎取組を通じて得られた成果や、解決した社会課題の状況、また関連した地域への効果や変化などをお書きください。</p> <p>5年間の活動を通じてお預かりする耕作放棄地の総面積は1haを越えた。また、その中でも我々が栽培するソバ「さちいづみ」やもち麦「キラリモチ」に適するところと、そうでないところの見極めもできるようになった。そして課題の連関性に関する独自の取り組みをまず我々自身が強く意識できるようになった。</p> <p>①耕作放棄地再生での成果を使い②就労支援サポート事業を立ち上げ③小規模生産・小規模消費のソバと大麦バージョンのビジネスモデルに今後も挑戦をしていく。そして、様々な情報提供の場を活用してほかの団体との協働を積極的に行う。</p> <p>また、市内には同様の取り組みをしている団体がある。我々の事業モデルに近い取り組み先には、現在もソバの種を無償提供させてもらって、放棄地再生の取り組みに協力させていただいているし、今後もこの姿勢に変わりはない。</p>	
今後の活動展開など	<p>◎今後の成果の普及や活動展開などについてお書きください。</p> <p>まさに今が6次産業化の端緒だ。何でも自前でそろえる必要はない。持てる団体の困りごとに対応するなかで、金銭面のリスクを避けることができる。我々がヒトの活用先として選んだ就労支援施設は、仕事限定されていて利用者個々人の適性にあった仕事の選択肢が少ないと思う。飲食業、製粉業、農業などで小さいながらも働きの場を提供していきたいと思う。</p> <p>今後、活動の場を同じく北区足守地区に移す。足守町並み保存活動を展開している。こちらにある古民家をお借りして11月より蕎麦処「三味庵」の開業を予定している。さらに同所で社会福祉法人「ももどの学園」のポン菓子詰め合わせにして販売していく。</p>	

蕎麦でイキイキ実行委員会の年度別活動総括

18. 10. 18

年度	事業名	協働先	協働名	活動内容	対象者
平成25年度	耕作放棄地でソバを栽培し、蕎麦打ち体験講座で楽しく食べる会	北公民館	北公民館 夏っ子オープンソバの種をまきまきしましよin牧山	牧石の耕作放棄地で春そばの種を蒔く。(山陽新聞市民版で紹介)	参加者12名
		下牧下谷町内会	下谷会館増改築完成祝い	参加42名に無償で蕎麦をふるま	42名の町民
		クライנגルテン	牧山納涼大会	無償で20人に十割蕎麦を振舞う	20名の町民
		北公民館	めざせ！蕎麦打ち職人	二八蕎麦を4ヶ月にわたり講習	40名
平成26年度	耕作放棄地でソバを栽培し、蕎麦打ち体験講座で楽しく食べる会	自主開催	春のいぶきの種まきセミナー	蕎麦打ち教室受講者中心に種ま	参加者15名
		自主開催	第二回種まきセミナー	同上	参加者6名
		自主開催	草取りセミナーin御津	蕎麦打ち教室受講者中心に草取り	参加者13名
		北公民館	ええものを子孫までESDってな	ラジオモモに出演し、活動報告	視聴者多数
		北公民館	ECOちゃんプラスに活動内容紹介	ESD活動としての側面を記事	情報誌読者
		牧石学区婦人会	大麦畑でむぎふみだ！イベント	大麦すいとん、お好み焼きを自作	小学生15名
平成27年度	活動エリアの耕作放棄地再生、限界集落再生及び環境保全	市民協働フォーラム	協働のまちづくり条例を考える:	事例発表としてこの活動を報告	フォーラム参加者
		宮本地区老人会	地区イベントのための見学	地区の放棄地再生で蕎麦打ち開	7名
		金山寺	寺山の放置竹林整備	竹チップにして寺山より搬出	檀家5名
		牧石婦人会老人会	地産地消セミナーin牧石	大麦だんご汁、二八蕎麦、大麦ワッフルを皆さんと作っていただいた	参加者14名
平成28年度	耕作放棄地再生、環境保全及び特産品作り	御津公民館 & NPO法人こどもセンタ	大麦うどんを打って食べよう！(夏休みフリー塾)	地元の田んぼで作った大麦を使いうどんに仕上げた食べた	参加者12名
		MOJIROU	自産自消セミナー	自分たちで作った蕎麦を自分たち打って食べた。さらに大麦ワッフルも	参加者8名
		御津公民館	異文化交流事業多文化カフェ	大麦うどんを自分たちで打って試	参加者22名
		高野尻テラス	蕎麦打ち教室	3月の講座として講習会を開催	参加者8名
		御津公民館	異文化交流事業多文化カフェ	大麦ワッフル自分たちで作って試	参加者20名
平成29年度	耕作放棄地活用で小さな6次産業化による新たな特産品作り	社会福祉美土里会	大麦原料でクッキー等の試作	就労支援に大麦粉を原料にした試作	
		高野尻テラス	蕎麦打ち教室「トトロのどろろ蕎麦	1月の講座として講習会を開催	参加者8名
		老人介護施設アイリーフ	年越し蕎麦	同所の食堂で実演	参加者53名

「蕎麦・大麦」の栽培事業育成により耕作放棄地再生、限界集落問題解決！

課題と目的

「蕎麦・大麦」の栽培を活用して、セミナーや講座を通して、地域住民と一緒に、地域の魅力を向上させ「耕作放棄地問題」「限界集落問題」「空き家対策」「移住者誘致」などの課題に対処していく。



「地産地消」体験セミナーの様子

今年の子な活動

- ・御津町（草生）で「ソバの種まきセミナー」を開催した。
- ・牧石地区で「地産地消料理会」を開催し、約20名が参加した。
- ・環境保全として住民と協働で竹をチップ化し、肥料としてリサイクルした。



耕作放棄地の整備

今年の子果

- ・継続的に地元住民と連携して活動しているのて、この事業を支援するために地域の中に「農村支援隊」が組織され、この事業活動に賛同する機運が生まれてきた。
- ・少しずつであるが、蕎麦・大麦の栽培、収穫そして消費と地産地消が浸透してきている。

【活動エリアの耕作放棄地再生、限界集落再生及び環境保全】

「蕎麦でイキイキ」実行委員会